

生涯にわたって 社会のいたるところで学ぶための方法序説

身近な学びの実践者から 学習支援のヒントの場を持つ

安西 春樹

提案：身近な学習者との対話から、学びと学習支援双方の実践について考えてみてはいかがでしょうか。

中央区では、生涯学習事業として、学びのきっかけづくりを目的とした中央区民カレッジ（以下区民カレッジ）を開催しています。今回は、区民カレッジの講座受講をきっかけに、実際に生涯学習・社会教育活動、地域活動を実践している区民の方にお話を伺い、学習支援の成果のひとつとして受け止め、私自身のふりかえりの機会としたいと思います。

今回、お話を伺うのは、中央区民カレッジ生涯学習サポート養成講座「地域活動を始めよう！」（以下養成講座）を受講、修了し、地域活動コーディネーター「わ」（通称「わ」の会）でのボランティア活動、また講座受講をきっかけにサークル（社会教育関係登録団体）活動もし

ている宮本みえ子さんです。

宮本さんには、区民カレッジ受講のきっかけと、ふりかえり、現在の活動実践までお話しいただきました。社会教育に関わる職員としても実践者の学び、気づきを直接知る貴重な機会となりました。

安西…2020年度と2021年度の区民カレッジで米本昌子さんが講師の養成講座が入り口だったかと思えます。

宮本…中央区に引越してきたのは2019年、中央区のことをよく知らないまま住み始め、翌2020年にコロナに直面しました。



宮本みえ子 さん

区民カレッジに申し込んだのは、中央区に知り合いを作ったから。それで、講座期間の長い養成講座を選びました。きつといい仲間に出会えるはずだと思っただけです。

【きっかけの区民カレッジをふりかえって】

宮本…最初に受講した米本先生の養成講座で、はじめて傾聴に触れて、色々なことがそこから始まりました。当時のメモに、米本先生の言葉がたくさん残っていて、「答えはいろいろなジャッジは不要、共感だけでいい」や「本人が答えを出すのよ」といった言葉に深く感銘を受けたことを覚えています。そして、「二人でいても気付けないからグループが必要」という言葉こそ、養成講座から生まれた「わ」の会の存在意義だと再発見しました。

【学ぶことについて 色々な講座を受講して】

安西…傾聴を学んだ養成講座の

他にも、区民カレッジの色々な講座を受講されてきました。ご自身の学びについて、何か答えは出てきましたか？

宮本…おっしゃる通り、区民カレッジでは、本当に色々な講座を受講しました。

はじめのころは、新しいことを知りたい、何かの道をきわめて、人に接してみたいと思つて、「話し方教室」「パントマイム」「朗読劇」「ラジオナビゲーターに挑戦」「能（仕舞）」など、パフォーマンス系の講座を受講しました。

それから、中央区のことも知りたくて、「日本橋老舗めぐり」「日本橋の古絵葉書」「伊勢商人」や、中央区民カレッジ生涯学習サポーター養成講座の「まち案内ボランティア養成講座」も受けました。

その後、食にも興味が出てきて、「発酵調味料」や「おさかな」の講座にも参加しました。築地場外市場の講座には、築地で働くの人々のこだわりが詰まっ

いて、彼らの気概っていうのかな、矜持に触れて、江戸時代から続く文化みたいなことをすごく感じました。中央区に住み始めて5、6年経って、ようやくそのありがたみが身に沁みました。これは講座のおかげ。区民カレッジは中央区民の自慢だと思います。

安西…学習講座をきっかけに生活の中が少し変わったんですね。

宮本…築地場外の講座で、一見こわもての仲卸の方が「知ったかぶりが一番良くないよ」と、やさしく教えてくれたことがありました。それがきっかけで築地がぐっと身近になって、日常の買い物に行くようになったんです。包丁を砥ぎに出したり、鯉節屋さんの鯉節でだしを取ったり、講座で学んだ「築地」が、生活の中にドットと流れ込んできた感じです。

安西…主催している側からすると、実生活に則した学び方、すごく嬉しいですね。

宮本…中央区ならではの講座は、

受けなきゃもったいないです。

ものづくりの講座もおもしろくて、「ワイヤークラフト」「アートフラワー」「ビーズ刺繍」などの講座にも参加しました。

作業に集中するとみんな静かになるけど、先生や隣の人と「その色合わせ、素敵ね」とか、「その素材をこうやって使ったのね」とか、そんなやり取りが楽しくて、仲良しグループもできました。やっぱり受講者は「知り合いたい」を求めているっていうのもありますよね。

安西…それも区民カレッジの目的のひとつですね。誰かから教えてもらうことだけではなく、隣の人との会話だったり、気にかけるところから学びや気づきが始まるもので、たまたま隣に座って話しかけたところから人との繋がりが広がれば、地域をつくっていく始まりになりますよね。それをつなげてくれるのが講師だったり学習テーマだったり。区民カレッジというと連携先の企業だったり、NPOだ

ったり。講師、受講生同士、人との新たな繋がりは、生涯学習、社会教育事業の目的なので、ぜひ続けていただきたいし、その気づきにまだ到達してない方に伝えていってもらうことも地域活動そのものになっていくのかなと思います。

【「わ」の会の活動を始めて】

宮本…区民カレッジの養成講座を修了して、そこからボランティアグループ（「わ」の会）になるまでには、長い長い時間がかかりましたよね（笑）

安西…時間をかけて、「わ」の会ができたんですね。宮本さんにとって、どのような場になっていますか？

宮本…米本先生の養成講座が終了した後も「なんだか居心地いいよね」と感じたメンバーが月1回集まるという期間が長く続きました。それでも続けていると、この集まりには特別な魅力があると気がついてきて、少しずつ自分たちがどうしたいのか

が見えてきました。そして、ようやく会の設立につながって、「わ」の会ができました。

月一回の定例会で、それぞれが日常の仕事や介護などで感じる思いを話して、みんなと共有して、また自分の生活に戻っていく、というのがいいサイクルになっていきます。敷居が高くないのもすごいところで、欠席が続いた後に、久しぶりに参加しても、気まずさがない。

安西…この人はこの話知らないかもしれないと思ったら誰からかフォローが入りますよね。それが自然にできるのは、人の話を聴く態勢ができていて、聴き手がどう聴き取れるかというのを考えているからで、だから皆さん話すのもすごくうまくなくてきているのが端から見ると感じます。話すことが上手な人って、聴くことができる人なんだろうなというのが分かります。

【講座をきっかけにサークル活動】
安西…「わ」の会の活動もそうで

すが、さらに今となつては演劇の講座から生まれたサークルでも活動されているんですよ。

宮本…2024年の演劇講座から、劇団ができました。

趣味の講座は、修了後、講座担当者が、サークルを作りませんかと言ってくださるのですが、盛り上がりつつある講座でも、いざサークル立ち上げとなると、みんな腰が引けちゃう。でも、この演劇に関しては、あっさりサークルになり、先日は中央区のサークル発表会にも出演しました。照明の当たった舞台でお客さんを前に仲間と芝居をして、その後には、たまらない達成感がありました。まだまだ知らない世界がありました(笑)

サークル発表会には、ほかにも合唱、詩吟、剣舞、ウクレレ、フラダンス、カラオケなど、たくさんさんの団体が出ていて、みなさん本当に一生懸命で、見ていて楽しかったです。サークルにとつて、発表の場があるというのは本当にありがたいことで

す。来年のサークル発表会も出ようねってみんな言っています。安西…大変になっちゃいますね、いろんなことが増えて。

宮本…はい。とっても忙しい、でも楽しいです。だってコロナの時、本当にやるのがなくなつて、つまらなかったから。コロナが明けて、いろいろ一順してみると、やっぱり人と会うのはいいよねっていう感じはありますよね。リアル、生、対面はいいって。

安西…もちろん色々なツールを使つてのやり取りというののも便利だし、それを使う時の注意点みたいなものも学んだし、でもやっぱりそうは言っても、会うことって大切だよねっていうところも確認できたかと思えます。宮本…コロナの期間を経て、私はちよつと前向きになりました。これから世の中が難しくなるかもしれない、という心配はあるんだけど、今はやれることをやるうみみたいな。



演劇サークルの活動

【ここまでふりかえって、あらためてご自身の生涯学習・社会教育とは?】

安西…私も学習支援という形で、区の職員としてお付き合いしてきた何年間かですが、何か思うこと、ご意見はありますか?

宮本…役所で仕事をされているということは、きっと報告すべきことがあつて、私たちの地域活動コーディネーターの活動に



次号の「発想する！授業」は宮城県の松田道雄さんからお送りする予定です。お楽しみにしてください。

安西春樹

(あんざい・はるき)

中央区区民部文化・生涯学習課

総括生涯学習指導員

対しても同じだろうと思っております。例えばこの間の卒業式交流会に関しても、事業の目的があつて、成果を出さなくては来年につながるであろうし、ということ考えたときに、あらためて社会教育って何だろう？って思いますよね。今日も、長時間、安西さんにとりとめないおしゃべりを聞いてもらつて、私は楽しかったけど、私をやっていることが社会教育とどうつながっているのか、分からないです。

安西…私も30年近く社会教育と関わってはいませんが、いまだに社会教育をどう説明していいかわからないという部分がたくさんありますね。この雑誌にも色々な事例や、日本全国の地域の実践が載っています。そういうのを見ると、自分はまだまだだなと思うことが多いです。

それでも中央区の中で行政としてできることをやってきて、市民の方たちが自分で気づいて獲得していくみたいな部分を見

ると、「社会教育やってるかも」というぐらいの気持ちになりま。環境を醸成するという仕事なので、すごく曖昧で人によつてやっぱり違うんですよ。うちの職員も各々全然やり方が違いますよね。宮本さんもこれだけ多くの講座に出てきたら、色々な担当者に会つてると思うんですけど、どれが正解なの？と思つている部分もあるかもしれないです。実は正解がないというか、正解がないから、創る楽しみ、探す楽しみがあると思つています。

初めはその生涯学習とか社会教育って全然意識してなかったと思うんですよ。でも色々関わつていこううちに、これが自分の学びかなというふうに思えてもらえたら、こちら側はすごく救われるんです。楽しくて、それを周りの方に伝えているというのそれが他の人を動かして他の人の社会教育活動にも繋がつていこうんです。それはすごく頼もしいことなんです。私たち

は、そのきっかけづくりでいろいろな講座をやっていますけれど、それだけが社会教育ではない。というかむしろ極々一端の入口なだけというところはいつか伝わり嬉しいなと思います。

宮本…講座の目的がきっかけづくりだとすると、私はもう達成しちゃいましたね。でも、これからも興味ある講座には、ぜひ参加したいです。

それから、中央区民カレッジが、ずっと続いてほしいです。講座を受講して、中央区をもっと好きになる人が、まだまだいっぱいいると思うから。

安西…そうですね。宮本さんもぜひ色々な活動が続けていっていただき、何年後かにその時のお気持ちをまた取材させてください。

今回、2時間程時間をいただき、宮本さんからお話を伺いました。本文には紹介しきれないほどの様々なお話、プライベートに踏み込んだ興味深いお話も

あり、時間があつという間に過ぎました。それでもまだまだ聞きたい、話したい思いもあり、時間がいくらあつても足りないほどです。

身近な学びの実践者の率直なお話は、仕事として社会教育に携わる身としてもとても貴重です。ぜひ皆さんも、身近な実践者との対話でヒントを得てはいかがでしょう。